

関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

厳寒期におけるトマト黄化葉巻病の防除対策（技術情報第10号）について  
（送付）

このことについて、下記事項に留意のうえ適正な防除が行われるよう、関係者及び農家等へのご周知ならびにご指導をお願いします。

## 記

### 1 ねらい

トマト黄化葉巻病のウイルス（Tomato Yellow Leaf Curl Virus：以下、TYLCVという。）を媒介するシルバーリーフコナジラミは寒さに弱く野外での越冬は困難で、12月から2月の厳寒期の密度は極めて低くなります。また、TYLCVに感染する雑草のほとんどが枯れてしまうため、野外でのウイルス密度も低下します。

このため、野外でのTYLCV及びシルバーリーフコナジラミがいなくなり、施設外からの保毒虫侵入が無くなるこの期間は、既に施設内に存在している感染源を完全に除去し、来春以降の発生源を断つ絶好の機会です。

### 2 防除対策（12月～2月）

#### （1）トマト黄化葉巻病に感染した株の抜き取り処分の徹底（最重要対策）

発病株は施設内での二次伝染源となるばかりでなく、春以降の施設周辺への発生源になるので、見つけしだい直ちに抜き取り、施設外に持ち出し埋没処分するか、ビニール袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。このことによって、新たな感染株発生の確率は非常に低くなる。

#### （2）雑草等の抜き取り及び除去

- ・ 施設内部の雑草や捨てたトマト果実から発芽した実生株は、TYLCVの伝染源、シルバーリーフコナジラミの生息・増殖場所となるので、栽培期間中は定期的に除去する。
- ・ 栽培しているトマト以外の作物及び鉢花や観葉植物など、シルバーリーフコナジラミが寄生する可能性のある植物は施設内に持ち込まない。
- ・ TYLCVに感染する可能性のある雑草のほとんどは野外では冬季に枯死するが、自然感染が確認されているノグシは越年するため、施設周辺のノグシは根から引き抜き、確実に除去する。

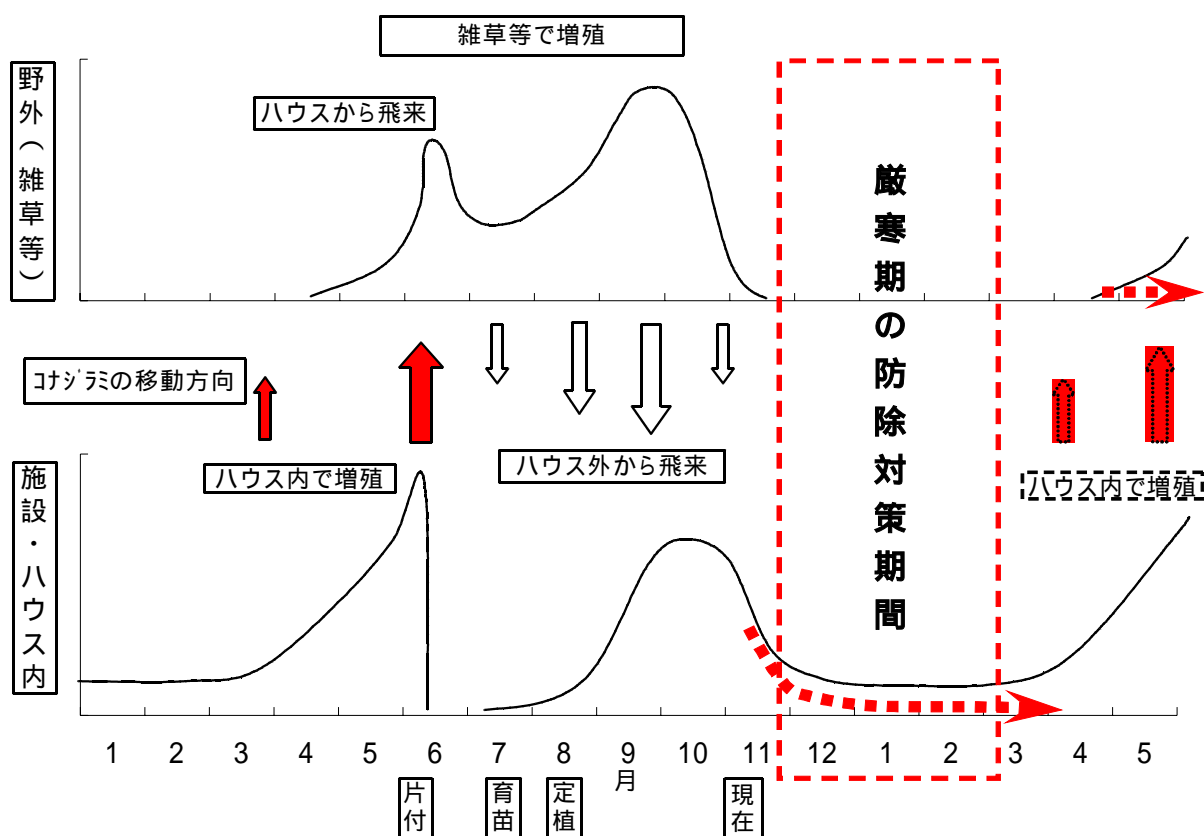
#### （3）既に施設内に生息しているシルバーリーフコナジラミの防除

低温期はシルバーリーフコナジラミの活動や増殖が抑えられ、生息密度も低くなるため、頻繁な防除は必要でないが、低密度であっても発生を認めたらシルバーリーフコナジラミに登録のある薬剤で防除する。

なお、黄色粘着トラップを施設内に設置し、コナジラミの早期発見に努める。

#### （4）地域全体で上記（1）～（3）を徹底する。

### 3 シルバーリーフコナジラミ成虫の生息密度の推移（年間イメージ図）



注：トマト促成栽培又は加温抑制栽培を想定したイメージ図である。

### 4 参考（シルバーリーフコナジラミの防除にあたって）

- (1) シルバーリーフコナジラミの成虫は下位葉や葉裏など薬剤がかかりにくい場所にも生息している。このため、薬剤散布にあたっては、登録の範囲内で、生育段階に合わせて十分な量を下位葉や葉裏など植物全体にムラなくかかるように、丁寧に散布する。
- (2) シルバーリーフコナジラミの幼虫や蛹は、下位葉に多く生息しているので、生育に応じて下葉かぎを行うと、密度抑制効果が期待できる。この際、かいだ葉は必ず施設外に持ち出し、埋設処分等する。
- (3) 同一系統薬剤の連用による薬剤抵抗性の発達をさけるため、防除に際しては系統の異なる薬剤を輪番で使用する。
- (4) 農薬の種類によっては、遅効的なものや、交配に使用しているハチ類、天敵などに影響がある薬剤もあるので、各農薬の特性を十分理解のうえ使用する。
- (5) 農薬は、登録のあるものを使用し、ラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数及び使用量等を守って安全使用に努める。